

学 長 挨 拶

福 永 哲 夫*

本日はこの生涯スポーツ実践センター協力者会議に多数お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ここのところ、今日もテレビでは柔道の監督問題、それからその前は桜宮高校のいじめの問題、いずれもスポーツに関するよくない話題がいっぱいありますが、それ聞いていまして皆さんいろんな勝手なこと言ってるんですけど、柔道の問題について、全日本のオリンピック代表選手がいわゆる行動に出たなと思います。これはプラスに評価したいなと思います。実は体育大学というのは、そういった指導者を養成するという大きな役割を持っておりまして、スポーツの世界はどうしてもクローズになりがちです。例えばよく言われるのは、昔はそれぐらい頑張ったけど、今は何で頑張れないのかという理屈です。頑張る、頑張れないというのは、本人の大きな個人差があるわけです。これは、その弱音を出しても、それをオープンにしながらやはり指導というのは行われなきゃいけないという、すごく強い気がしまして、それにしても執行部の体質というのはよく分かりませんが、やはりマイナスです。最初は僕はすごくプラスに評価したいと思うんです。そのようにすべてガラス張りでやらないと、決してそれはならない。ただ、精神的に弱いとか強いとかいう問題とは全然違うような気がしております。これは指導者を養成する体育大学の大きな使命でもあらうと思うんです。昨年スポーツ基本計画、その前にスポーツ基本法という法律ができました。スポーツ基

本計画というのは具体的にはどうするのか。私はその計画を作るのに携わってまいりましたが、大きく3つです。子供が動けなくなっているなら、動ける子供を作る。子供にいかにもスポーツを振興させるかということです。

もう1つが生涯スポーツです。ここのメインテーマです。生涯スポーツ振興で特にテーマに今なっているのは、スポーツクラブを通じていかに地域の人達の健康、体力づくりを、あるいはスポーツ文化を広めていくか。3つ目が今日の口上ですけど。いずれにしても、先程の話ではないですけど、指導者がきっちりした指導ができてないとスポーツと言うと簡単なようなんですけれども、実は心、体、どちらの面からも非常にこれリスクだと思ってるわけです。それをいかに指導するかというのは本当の専門家じゃないと無理なわけです。そういうことに関わる大きなテーマでございます。

この生涯スポーツ実践センターの我々のミッションもそうでありまして、いかにその地域住民の人達と共同で健康で、健康というのは心身ともに健康で、やはり楽しい生活ができるような体づくりということ。そういうのをずっとやっていきたいなと思います。今日はそういった意味で何人かの先生方のプレゼンテーションがござimasuので、是非有意義なディスカッションをしていただければなと思います。どうもありがとうございました。

*鹿屋体育大学長